

わたつみも雪げの水はまさりけりをちの島々みえずなりゆく
 〔新拾遺和歌集十〕雪にて丈六の佛をつくり奉りて、供養すとてよめる、
 瞻西上人
 いにしへの鶴の林のみゆきかと思ひとくにぞあはれなりける

〔古今著聞集五和歌〕嘉保三年正月晦日、殿上人船岡にて花を見けるに、齋院選子より柳の枝を給はせけり、
略 其夜の事にや、殿上人齋院へ参たりける、御用意なからんことを、はかり奉りけるにや、さる程に寢殿より打衣きたる女房あゆみ出て、笙をもちて殿上人に給はせけり、雪にて管をつくり、たるひにて竹を作たりけり、則内裏へもちて参て、御覽せさせければ、ことに叡感有て、大宮へ奉らせ給ける、

〔東都歳事記四十一月〕看雪略 雪をもつて市街へ達磨布袋、其餘色々の作り物をなす、又雪轉の戲等諸國に替らす、

〔續近世畸人傳五〕僧惠南 惠南名忍鏡號空華子、平安の人也、聞香に長じ、一時に鳴、連理焼合五味七國をき、まるのみならず、凡物の臭氣をきくこと常ならず、或雪の朝、雪もてさまざまの物の象を作りて、童の持來りしを見て、此兎は某の家のあたりの雪かるとふ、童どもまかりとこたふ、其作りたる人は某かるとふ、又まかりといふ、傍の人おどろき、香のみならず、雪までも鑒定し給ふやととへば、微笑して、此雪魚臭にはひあれば、其家をさし、又其載たる板も臭氣あれば、其人をまかりぬ、其人は魚賈なればといへり、

雪山

〔禁秘御抄下〕雪山 年内雪蒙催所衆、瀧口等參、春雪、沓鼻隱、必可參、大内藤壺弘徽殿也、里内依、便宜、藏人

下知修理職儲屋具、雪不足時、被召諸御願寺、執行奉之、瀧口相具衛士及取夫、上殿上舍、於棟抛雪所衆作雪山、瀧口上臈三人、所衆上臈三人、立庭奉行、持柄振藏人頭候、簀子奉行多直、藏人候、便宜所傳

事、修理職作屋、凡如此事、上古不見、自中古事也、事始大略一條院御時以後也、清少納言記在其子細